ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

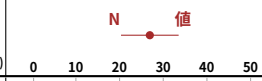
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-1	調査位置						北　緯	36 ° 58 ’ 6.4300 ”
発注機関	栃木県　日光土木事務所			調査期間	2009-11-07 ～ 2009-11-10			東　経	139 ° 36 ’ 46.8000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	713.21 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	13.00 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) / 測定月日
	712.71	0.50	0.50		盛土 (BS)	灰			最上部5cmはアスファルトによる。以深、砕石0-30の路盤材である。		
1					砂礫 (GS)	灰茶	中ぐらい		崖錐堆積物である。 φ10～30mmの角礫(岩片)を主体にコア長3cm内外(推定φ100mm前後)の岩塊を混入する。 マトリックスは中～粗砂分と細粒土分で構成され、礫間を緩く充填する。 GL-4～5m間、礫間充填物の細粒土分依存が顕著である。 GL-5m以深、φ50mm前後の角礫分の混入が目立つ。 GL-5.5m付近より、細粒土分の含有が多く、局所的には粘土質砂礫状を呈す。		
2											11/07
3											
4											
5											11/08
6	706.71	6.00	6.50								
7					粘土混り砂礫 (GS-C)	灰茶褐	中ぐらい		崖錐堆積物である。 礫はφ5～30mmの角礫を主体に最大φ60mm程を含み、局所的にはコア長3cm程度(推定φ100mm内外)の玉石分を認める。 礫間は細～中砂分とやや多くの粘土分でやや緩く埋められる。		
8											
	704.51	2.20	8.70					硬い			
9	703.91	0.60	9.30		砂質粘土 (CHS)	暗茶			火山灰質で粘性・含水共に中位で軟らかい。全体に細砂分を含有し、局所では幅5mm程の薄層を成す。		
	703.71	0.20	9.50		砂 (S)	暗茶			細砂を主体にφ5mm内外の細礫分を稀に混入する。		
10					砂礫 (GS)	褐灰	密な		GL-10～11.5m間、礫間充填物への粘土分含有が目立つ。 φ10～40mmの亜角～亜円礫を主体にφ60mm内外を含み、コア長3～5cm(推定φ100～150mm)の玉石を混在する。 マトリックスは細～粗砂分と粘土分で構成され、礫間を密に充填する。		11/09
11											
12							非常に密な		GL-13.2m付近より出水有り。		
13	699.93	3.78	13.28								11/10 13.20

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0-10	10-20	20-30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	5	5	5	15/30	15
1.45					
2.15	4	3	4	11/30	11
2.45					
3.15	4	4	4	12/30	12
3.45					
4.15	5	5	5	15/30	15
4.45					
5.15	4	5	6	15/30	15
5.45					
6.15	4	4	5	13/30	13
6.45					
7.15	4	5	6	15/30	15
7.45					
8.15	4	4	4	12/30	12
8.45					
9.15	1	4	4	9/30	9
9.45					
10.15	12	11	12	35/30	35
10.45					
11.15	16	15	13	44/30	44
11.45					
12.15	18	18	14/7	50/27	>50
12.42					
13.15	20	30/3		50/13	>50
13.28					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日